

マスターズを彩るレジェンドたち(24)

春日和の4月。桜の花見はいかがでしたか。花祭りの季節になると万物は活発に活動するが、マスターズ陸上の分野も各地から記録の便りが連合事務局に届くかもしれない。楽しみに待ちたい。今月号もレジェンド物語になるが、男子はM90クラスの平田数秋さん(90歳・愛媛)と、W45クラスの酒井あおいさん(48歳・愛知)で、平田さんはやり投と投てき五種、酒井さんはスプリンターとして活躍中だ。

写真/平田数秋さん、酒井あおいさん、椛本結城

平田数秋さん(90歳・愛媛) M90・やり投と 投てき五種の猛者

すごい人が現れた。愛媛県西条市に住む平田数秋さんだ。0.4kg(400g)のやりを手にして、2022年の岡山マスターズ選手権で投げた一投は20m78と20mを超えた。従来のクラス別日本記録は2007年につくられた19m06だから、久々に聞かれた日本新記録だ。

また、投てき五種は19年に樹立した2296点を上回る初の3000点を超える3037点をマークした。素晴らしい記録の内訳はハンマー投17m96、砲丸投6m32、円盤投12m64、やり投18m96、重量投7m48となっている。

2種目でクラス別日本記録を更新した平田さん。やり投については20m78のベストを出す前の4月30日の和歌山マスターズ選手権で20m30と、新記録を出していたので「機会があれば20m50はいける」と自信を持った。この自信が岡山マスターズ選手権での記録に結び付いたのだろう。

投てき五種に関しては、毎年、会場の石川県まで足を運んでいるが、22年の大会では競技会要項の入手に際して、手違いが生じ「ふ〜む、今回は参加できないかもしれない」とあきらめかけていた。が、諸事についてははぶくが、最終的に参加できることになった。

「手違いがあったりしたので、記録なんてとても」と思っていたのに、3000点超えの記録が出せた。平田さんは「まさか、の思いでした。幸運なことだ、と喜んでます。この記録に満足せず、

次への精進のステップにします」と、さらなる躍進を誓った。

1980年にマスターズに入会した平田さん。まだ、愛媛中・高齢者スポーツ協会と称していた時代だ。平田さんの記憶では51歳のとき、参考までに述べると400m58秒9、800m2分18秒1と2種目で1位になった。

75歳になった07年10月7日に徳島であった第25回四国選手権では、M75・砲丸投8m14、円盤投18m49、やり投20m96と3種目で四国ナンバーワンになった。同年10月21日に行われた第32回愛媛大会では砲丸投8m40、円盤投20m74、やり投24m19と記録を伸ばした。

また、この年の全日本と国際ゴールド両マスターズ選手権ではM75・やり投でいずれも6位入賞に。このように平田さんが「走から投」に変わったのは、マスターズに入ったころに「走っていて心臓に違和感を覚え、走から投に移行した」そうだ。

走の方は陸上を始めた県立新居浜西高の2年生からで、高校時代はインターハイ、全国高校駅伝、国体などを体験したという。マスターズの途中で投てきに移って、やっているうちに「やり投が最も適している。苦手は円盤投」と語る。では、やり投の魅力はの質問には「特にあ

りません。

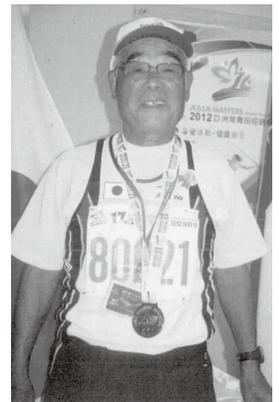
投てき五種は「興味本位で大会に出てみただけ。それが尾を引いて今でも」と笑う。投てき五種に初参加したのは、14年の石川県での重量五種選手権(当時)で82歳のとき。M80クラスで2711点(23m74、8m54、15m90、20m90、8m61)の2位だった。

この年は岩手・北上で第35回全日本兼第18回アジア・マスターズがあった。平田さんはM80・やり投は24m12で5位だったが、砲丸投は9m49で1位(アジア大会では2位)となっている。平田さんに指導者はなし。自身の練習ではやりの握り方や、一投、一投、投げ方がどうだったのか、を考えながらやっている。練習は週4〜5日、1回ざっと2時間ほどという。

4月30日で91歳になる平田さんは難聴だが「競技会では支障なし」で、やりに関しては使用する400gの重さに、練習用として430〜475gの負荷を課している。時間があれば自家菜園



2012年の第17回アジア・マスターズ選手権。平田さんはやり投で24m40を記録して3位に



第17回アジア・マスターズ選手権、やり投で銅メダルを手にした平田さん

や花畑の手入れに精を出す。

「何事も元気、本気で根気よく」をモットーに、生涯スポーツのマスターズ陸上に打ち込み「(マスターズ陸上を)推奨したい」と力強く語った。

酒井あおいさん(48歳・愛知) W45クラスですごいパワーの スプリンター

W45クラスの短距離で2022年に60m・7秒86(+1.3)、100m・12秒53(+0.5)、200m・26秒22(+1.2)と3種目でクラス別日本記録を樹立した女性スプリンターがいる。愛知県名古屋市に住む酒井あおいさんだ。48歳。

旧記録は60mが7秒98で09年に出されたもの。100mは12秒76で10年、200mが26秒93で16年にそれぞれつくられていた。酒井さんはこれらの記録をいずれも更新したのだ。

それにしてもすごいパワーだ。普段は空手の指導をしている酒井さん。「空手のトレーニングの一環として」と、マスターズ陸上に目を向けたそうだ。それは子育てが一段落した38歳頃だった。知人から「空手もいいけど、走ってみたい」とマスターズ陸上を勧められたのがきっかけ。

そこでマスターズ陸上のことを調べてみて「このようなスポーツがあるんだ」と、登録を済ませた。12年、38歳のころ第33回全日本マスターズ大会(岡山)に出てみると、初レースのW35・60mは8秒25(+1.7)でいきなりのトップ。100mは12秒97(+1.4)で3位となった。

翌年に佐賀であった全日本マスターズの第34回大会では、W35・60m7秒98(+2.7)、100m12秒77(+1.0)、200m26秒01(+2.4)と39歳、参加2年目にして三冠獲得だ。年は変わって14年、まだ誕生日前の39歳のとき、W35クラスの60mで7秒92の日本記録を出した。

この年は岩手・北上で第35回全日本兼第18回アジア・マスターズがあり、酒井さんはW40・100mに出場し、12秒77(+2.7)で1位、不惑(40歳)

の節目とした。なお、100mは12秒73と同年ランク1位に座った。

快進撃は次年の15年も続く。岐阜であった第36回全日本マスターズではW40クラスの60m、100m、200mの3種目に出場した。結果は60m8秒29(-0.2)から12秒91(+2.4)、27秒26(+0.6)と、ただ1人の100mは12秒台、200mは27秒台だった。またも三冠達成だ。

翌年はオーストラリアのパスで行われた第22回世界マスターズ大会に初参加し、W40・100mで12秒78(+3.8)の6位に入賞した。42歳となったこの年は全日本マスターズを欠場。17年も全日本マスターズには姿を見せず。が、記録の方はW40クラスの60mで8秒18、100mが13秒20と2種目でランク1位に。200mは29秒18とランクは5位だった。

19年は思い出深い年となった。6月に福岡・博多の森陸上競技場で第103回日本選手権が行われ、マスターズの部が設けられた。酒井さんも選抜され、W40・100mに出場、12秒86で1位に。さらに9月に群馬・前橋での全日本マスターズの第40回記念国際大会で、W45クラスの100m、200m

に出て13秒25(-0.6)、27秒28(-2.5)と200mは大会新で2種目を制している。

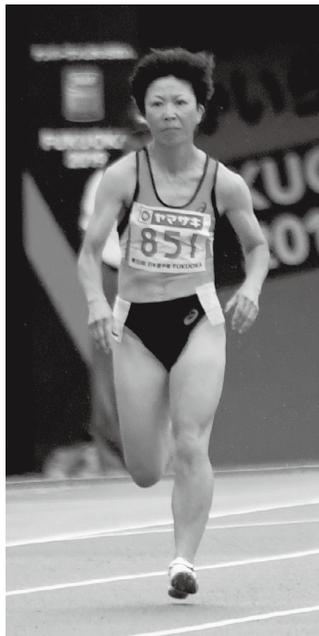
特に日本選手権では「スタンドには大勢の観客が。雰囲気はマスターズの大会とは違うし、緊張しました」と言い「やるしかない、と覚悟を決め必死で走りました。ゴール後、うれしさも倍増でした」と付け加えた。

空手と陸上短距離との関連は「同じスポーツだから一緒ですよ。腕の動かし方も同じですし、楽しみも同じ」と微笑んだ。

コロナ禍で全日本マスターズ大会が中止になって3年たつが、その間、地元の大会などに出て、20年はW45・60m8秒15、100m13秒00、200m27秒41、翌21年が8秒24、12秒98でいずれもランクは1位だ。さらに、100mと200mでタイムを上げたのが22年だ。

今後の目標については「100mは12秒5以内、200mは25秒台を」ときっぱり。今年3月19日の室内大会でW45・60mに8秒08とクラス別室内日本記録を上回るタイムを出している。

今後、ますます充実度を増していく。



2019年の第103回日本選手権、マスターズの部に出場した酒井さん



酒井さんは2019年の全日本マスターズ第40回記念国際大会で2種目を制覇